

編集後記

梅雨最中ですが、これから大雨が危惧されます。会員の先生方におかれましては、体調に充分ご留意ください。

誌上ギャラリーは、大山 勲先生の「アンサンブル」です。ひまわりに蝶がとまった瞬間が捉えられており、夏を感じさせる風景です。

「挨拶」は、6年11カ月事務局長を務められ、5月いっぱい退任された東 耕治氏の退任挨拶と6月1日付けで新事務局長に就任された中園豊明氏の就任挨拶です。東氏は参与・会長付特命担当（局長待遇）として引き続き鹿児島市医師会のためにご尽力くださいます。

「論説と話題」は、5月に開催された第10回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会の報告です。「これまでの10年、これからの100年」というテーマで開催されましたが、WONCA APR（世界家庭医機構 アジア太平洋地域学術総会2019年）と合同開催でした。参加者からの報告をご拝読ください。

「医療トピックス」では、鹿児島市医師会病院薬剤部の瀧下恭子先生より新規過活動膀胱治療薬についてご投稿いただきました。過活動膀胱治療薬は従来抗コリン薬が使用されていましたが、最近「アドレナリン受容体作動薬」が販売されてきているとのこと。副作用が少ないなどの特徴があり、日常診療に大いに役立つ記事であると思います。

「学術」には、鹿児島市立病院の竹内彰教先生に「非アルコール性脂肪肝炎が疑われる患者に偶然に肝細胞癌が発見された1例」をご執筆いただきました。健診とともにその後の速やかな対処の重要性を指摘されています。また、内科医会総会・講演会で講演された佐賀大学教授野出孝一先生より「100年人生時代の循環器病合併糖尿病治療～心不全ガイドラインを活用する～」のご寄稿をいただきました。

「医師会病院だより」は消化器内科下川原尚人部長による消化器内科の紹介です。

今後とも医師会病院へのご紹介をよろしくお願いいたします。また、週間診療案内と外来週間スケジュールを掲載しておりますので、参考にさせていただけたら幸いです。

「随筆・その他」は、まず古庄弘典先生による「切手が語る医学」は身体障害・リハビリ・社会保障の切手の紹介です。また、前号に引き続き今村総合病院の林 恒存先生には「総合診療とは？（その2）」をご寄稿いただきました。その他、武元良整、上ノ町 仁および小田原良治先生からご寄稿いただきました。今後も会員の先生方の積極的なご寄稿をお願いいたします。また、「リレー随筆」は鹿児島大学病院の松下敬亮先生の「四国イケ麺紀行～背徳のブドウ糖負荷試験編～」です。

「区・支部だより」では紫南・錦江支部の活動報告をしていただきました。

「各種部会だより」は、第1回および第2回医療安全管理研修会、市泌尿器科医会総会の報告です。各専門分野で研鑽を積んでおられる会員の先生方の姿が浮かんでまいります。

「各種報告」では、第1回学校医会役員会、医報編集委員会の委員会報告と第25回日本保育保健学会、鹿児島市特別支援連携協議会について報告がありました。

「附属施設だより」では、医師会病院の平成31年4月の診療・収支実績を報告しました。医師会病院の経営はまだ安定していません。6月号に上ノ町会長や園田院長が寄稿していますように、医師会病院は4月から病床数を適正化し、新体制で運営しています。会員の先生方のさらなるご利用をお願いいたします。また、検査センターの4月の検査実績と3月の収支実績も報告いたしました。

今月の「鹿市医郷壇」の題吟は「沢山（ずんばい）」でした。最近、投稿者が少なくなっています。是非、多くの会員の皆様からの投句をお待ちしております。

（編集委員長 長友 医継）